

里だより

No.343

令和2年8月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



カレーバイキング
れいわ2ねん7がつ7にち

カレーのトッピング
好きなものをのせてください

メニュー

カレー3しゅうい
カレー

ビーフカレー
バターチキン カレー
キーマカレー

エビフライ
ハンバーグ

たなぼたそうめん
たこやき
フロティンサラダ
グリルやさい

サラダバー
ケーキとフルーツのもりあわせ
ジュース



日清医療食品のみなさま
ありがとうございました
何度もおかわりをして
お腹いっぱいになりました

八月号もくじ	施設長より……………1	サビ管より……………2	主任より……………3	職員より・事務局より……………4	サービス向上委員会より・ 行事報告……………5	行事予定・ ありがとうございました・ 編集後記……………7
--------	-------------	-------------	------------	------------------	----------------------------	-------------------------------------

(ページ)



施設長より

新たな生活様式の始まり

七月三日以降に熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した「令和二年七月豪雨」。

県内では、県南部・川辺川・球磨川流域の人吉市や球磨村を中心に死者六十名を超える大災害となりました。

コロナ禍に豪雨追い打ち。この度の集中豪雨で被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染者が、東京都を中心に大都市への拡大傾向が見られる中、他県から東京圏三県を訪れ、地元へ帰って感染が判明した人が、少なくとも二十道府県で五十人以上に上るとの報道を聞きました。今後、政府の観光支援事業「Go To キャンペーン」が実施されれば、更に感染者が増えることは必定。熊本にも第二波が何時訪れるか心配でなりません。

七月二十日現在、幸いにも熊本県では、新型コロナウイルス感染症対策に係る熊本県リスクレベルが「リスクレベルⅠ・注意」を維持していることが何より有り難いことです。

この県内状況を踏まえ、当施設では六月から段階的に活動の範囲を広げ、七月からは屋内のテーマパークまたは屋内での飲食を伴う班外出及び個別外出も再開させていただきました。

但し、外出に際しては、県内に限ること。また、他のお客様の迷惑にならないよう、団体での行動は避け「三つの密」に充分注意しながら六人以下の分散外出を条件としています。

四カ月ぶりとなる待ちに待った外出許可。職員から次々と利用者さんとの外出の起案書が上がってきます。決裁欄に印鑑を押す手も嬉しくて力が入ります。

「園長、行ってきまうす」と、満面の笑みを見せて出掛けられる利用者さん。

「園長、回転ずしに行ってきたよ。マグロが美味しかった」と、楽しそうに話してくれる姿。

これから先も、まだまだ多くの制限がある中での外出となりますが、ようやく利用者さんの笑顔と共に、少しずつ普段の光景に戻りつつあります。

そして、延期しておりました個別支援計画に係る保護者面談も七月から開始させていただきました。これも利用者さんにとって四カ月ぶりとなるご家族との再会。ご家族様にもご心配とご不便をお掛けいたしました。ご家族との楽しいひと時を過ごすことができましたようです。

施設にあつても従来通りの行事や活動には戻れませんが、利用者さんが不自由なく楽しく生活できるよう、新たな生活様式を摸索しながらスタートして参ります。

施設長 小川 眞司



サビ管より

開園記念祭実行委員会



熊本県南部を中心に甚大な被害を各地にもたらした九州豪雨から間もなく一ヶ月を迎えようとしています。線状降水帯による河川の氾濫、土砂災害、冠水被害など、多岐にわたる自然災害による行方不明者も出ている状況です。被害にあわれた方、また、現在も避難生活を余儀なくされている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興・復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、八月一日はつくしの里の開園記念日です。平成二十八年度までは、地域の皆様や関係各位への感謝の気持ちを込めて、夏まつりを開催していましたが、地球温暖化の影響からか、準備段階と当日の暑さにより体調を崩す利用者さんや職員が増えてきたため、翌年からは秋まつりに変更させていただきました。その分、八月一日に何かできないかと考えたイベントが「開園記念祭」になります。

今年度で三回目を迎える「開園記念祭」。実施するにあたって、これまでと違う取り組みで臨んでいます。それは、実行委員会があるということです。メンバーは「どぎゃん会(利用者自治会)」から選出された利用者の方で、利用者さん自身が計画・立案し、実行する「利用者主体の行事」と位置付けました。

六月下旬に一回目の実行委員会による話し合いを行いました。行事担当者の職員も話し合いに参加し、側面的な支援をしながら何がしたいか、何を食べたいか、どういう行事にしたいか、など

など様々な意見が出ました。

食事の議題では、役員全員一致で豪華な祝い弁当とのこと。

「こういう時ぐらい、うまい弁当が食いたか!」「弁当には、すしやてんぷらが入ったがよか!」と、それぞれが考えて意見を出されていました。

すると、「俺たちだけで決めるといかんけん、みんなに選んでもらおう!」「いくつか弁当を見せて、みんなの意見を聞くけん」と、一人の利用者の方が発言されました。

何気ないこの言葉に、祝い弁当をみんなで決めたいという優しさ、行事に参加するすべての利用者の方に配慮した心配りが、この一言に詰まっていると感じました。

「意思決定支援」という言葉を毎日のように耳にします。自分のことは自分で決める、自分の考えや意思を表出する、表出が難しい利用者の方へはその利用者の最善の利益となるよう、職員が本人に代わって代行支援をしていくことが「意思決定支援」に示されています。

「意思決定支援」につながる場を、私たちがどれだけ利用者の方に提供できるか、利用者の方の意思をどのくらい汲み取れるかが大事になってきます。

今回の開園記念祭においても、利用者代表による実行委員の意思が十分反映できるような行事にしていくと共に、開園記念祭が終わったときに、自分たちで行事をやり遂げたという達成感に満ち溢れた表情を想像しながら当日を迎えたいと思います。

支援係長 竹下 幸樹

主任より



生活介護班五班の昨年の今頃は、八月末に控えた一泊旅行の話題で持ち切りでした。初めての新幹線の座席、駅弁の内容、ホテルでの食事や温泉等々。しかし、今年は状況が一変。「旅行は行かれんとだろ?」「コロナだけんね」とネガティブな会話が聞こえてきました。私はずくに会話に入れませんでした。

施設全体で出かけていた一泊旅行を、平成二十五年度に班で復活させて七年。県内は天草や水俣、県外ではフェリーを使って雲仙、昨年度は新幹線で指宿まで行きました。

恒例で利用者のみなさんが一番楽しみにしている一泊旅行。また、ご家族からも「今年はどちらまで?」と期待されている旅行。利用者さんのアルバムを見返すと、どれも普段見せない満面の笑みがあります。簡単に「今年は中止」と口にしたくはありませんでした。

観光業界では、三密を避けるために、また徹底した感染症対策やチェックインの無人化などIT化も進んでいます。集まって食事をする場所はどうしても感染拡大のリスクが高く、締め切った空間で複数の人がいる状況は避けなければなりません。これまでは、旅館に到着するとお出迎えされ、荷物は運んで頂き、お部屋まで案内されるのが通例でした。反対に今までは失礼だと思われていた無人サービスが、これからは安全で良いサービスと言われるでしょう。

しかし、そういった対策が万全なところばかりではありません

ん。また、班全体で一泊旅行をするには密にもなりませんし、施設長が示した六名以下の分散外出の要件に当てはまりません。ですので、今年度は一泊旅行をお休みとし、これまでの旅行の思い出を利用者さんと一緒に振り返る会に変更して、三密にならない安心して楽しめる旅行が出来る日を心待ちにしたいと思います。

ここで私のコロナ対策をご紹介します。根拠としてははっきり言えるものではありませんが、日頃の生活で何を食べたら免疫力が上がるのか。個々で体力をつけておくということは対策が少ない中でもかなり良い面はあると思います。基本的には睡眠を良くとり、体調を悪くした時にも打ち勝てる体力を保っておくこと。それと、心が疲れていると感じたら、出来そうな事からストレスを小さくすることです。心がけ次第でストレスは大きくもなり小さくもなります。日常生活するストレスに気分が左右され、無くなれば有意義なことに時間やエネルギーを使うことが出来ると思います。

先日、四か月ぶりに利用者さんと町内へ買い物と食事に出かけました。利用者さんから「あく楽しかった」「ストレスが減った」と一言。利用者さん達も多大なストレスを感じて生活していた様子でしたが、少しの気分転換は出来たようでした。

旅の効能についてはここではご紹介できませんが、ストレスが多いW I T Hコロナ時代。安心安全な旅が必要とされています。

主任支援員 長渕 さくら

職員より

先日、生活介護班2班の七夕行事で「スイカ割り」をしました。七夕とスイカ割り。関係は無いかもしれませんが、どちらも「夏」に因んだ行事という事で、企画させていただきました。事前に短冊に願い事を書いていただいた後、スイカ割りを行う場所に貼り出し、2つの「夏」を味わう事が出来ました。自分自身、私生活で「七夕」や「スイカ割り」等しなくなり、利用者さんも、こういった行事がなければ中々触れ合う事も少なかった事と思います。終了後に利用者さんから「スイカ叩いたよ」「甘くて美味しかったよ」と言葉をいただきました。こういう機会でも笑顔になってもらえるのであれば、私たちも嬉しい事です。

これからも「ちょっとしたイベント」でも季節感を味わい、笑顔溢れる毎日を過ごしていただきたいと感じました。
(支援員 上村)



7月6日に生活介護班4班で七夕行事をしました。利用者さんと職員で飾りを作り、七夕の由来や意味を、職員が説明しました。みんなで短冊にお願い事を書いた後に、水ようかんを食べました。水ようかんは味が4種類あり、利用者さんはしっかり悩みながら、食べたい味を手にとられていました。願い事には「高級なハンバーグを食べたい」と欲望むき出しのものから、「お母さんが元気でありますように」と優しい気持ちに溢れたものまで様々でした。みなさんの「これから」に思いを馳せるひと時になりました。ぜひみなさんの願いが叶えばと思います。
(支援員 尾崎カ)



事務局より

ご家族・後見人の皆様におかれましては7月の面談・通帳確認、大変お世話になりました。新型コロナウイルスの影響でずっと延期していましたが、ようやく行うことができ良かったなど少しほっとしています。また、利用者さんにとってもご家族とは久々の再会！という方もおられ、楽しくお話される姿を見てこちらまで嬉しくなりました。

東京では新型コロナウイルスの第2波がきており、まだまだ熊本でも注意が必要だと感じています。ご家族をはじめ、つくしの里へ来園された方へは事務局受付での検温と消毒にご協力いただき、そのおかげもあり利用者さんも元気に過ごせているのだと思います。暑い季節に入りましたが、今後も手洗い・うがいなど予防はもちろんのこと、職員も普段から体調管理に気を付けたいと思います。
(事務員 本田)

サービス向上委員会より

■ 施設PR【主任支援員 井上・支援員 池田ト・田中】

つくしの里を一人でも多くの方に知ってもらうことを目的に活動しています。今の世の中のニーズに応える為には、やはり若い職員の発想が不可欠で、新人職員をメンバーに迎えて、年間計画を立てました。

活動の1つめの柱は地域のゴミ拾いです。毎月1回、近所の公園までの道と公園内のゴミ拾いに行っています。ジュースのボトルやタバコの吸い殻などを拾って、施設に持ち帰りましたが、途中で地域の方に労いの言葉を頂くこともあり、やって良かったと感じました。利用者さんにとっても世の中の役に立っているという意欲に繋がり、ゴミを拾っている姿を見て、捨てるのを止めようという啓発にも繋がるのではないかと思います。

2つめの柱は、SNSの活用です。多くの人に知ってもらう為には、携帯電話などから情報を見やすくする必要があります。ホームページでもつくしの里の情報を見ることができますが、もっと手軽に情報を発信できるように準備しているところです。いつかこういった活動から一人でも二人でもつくしの里を支えてくれる仲間になってくれる方が出れば…そんな日を夢見て、一緒に楽しく取り組んでいきたいと思っています。

行事報告 ※ 6/21(日)～7/20(月)の実施分について報告いたします

★ 生活介護班②班食事会【6月30日(火)つくしの里】

新型コロナウイルス感染予防のため、班外出ではなく、施設内で「お楽しみ昼食会」を実施いたしました。豪華弁当とケーキなどでパーティー気分を味わって頂きました。豪華弁当は3種類からそれぞれ好みのものを選んで味わって食べられていました。また、ケーキやお菓子を夢中になり、中々落ち着かない利用者さんもいらっしゃいました。普段の食事では好物のおかずでも咽込みや拒否などが見られる方が、普段より早いペースで食事を食べられていたことにビックリしました。「食事は何を食べるかではなく環境(人や場所)により変わる」とは、まさにこの事だと感じました。(支援員 井)



★ バイキング昼食会【7月7日（火）つくしの里】

年に2回の楽しいバイキングの時期がやってきました。今回は、カレーバイキング！！バターチキンやキーマカレーにヒレカツやエビフライなどのトッピングで、利用者の皆様が大好きなものばかりでした。「どれにしようかな～」と悩みながら選ばれる姿を見て微笑ましかったです。ご飯やナンをお代わりされる利用者さんも多く見かけました。利用者さん同士で「食べ過ぎた～」「〇〇も美味しかったよ」と会話される姿も見られました。

（支援員 森）



新棟のトイレを改修しました



行事予定

☆ 開園記念祭 (つくしの里)

期 日：8月1日 (土)

内 容：開園記念日に施設内でささやかなお祝いとして、
昼食に豪華弁当を準備します。



ありがとう

ありがとうございました



今月の掲載分は、

令和二年六月二十一日～

令和二年七月二十日です

【シヨートステイ・

日中一時支援事業のご利用】

(十名 延べ 九十四日)

【寄付・寄贈】

- ・江頭勝 様 ・佐々木 須美子 様
- ・中島茂 様 ・佐藤 みほ子 様
- ・久保昭憲 様 ・芹川 由貴子 様
- ・田上至誠 様 ・緒方 和子 様
- ・廣瀬悦美 様 ・前原透 様
- ・光永順子 様 ・米田 政輝 様
- ・渡辺昭子 様 ・田中 幸一 様
- ・大塚武年 様 ・松尾 麻未 様
- ・甲斐美佳子 様 ・(株)小竹組 様
- ・(株)三協化研様 ・長野歯科医院 様
- ・多機能ホームすくすく 様
- ・日清医療食品(株) 様

【ボランティア】

- ・村里和弘 様 ・ときろろ 様
- ・カモメ 様 ・木本ふじ子 様
- ・佐藤典子 様

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。



※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して
記事の記載、確認をしておりますが、誤字
脱字等がございましたら何卒ご容赦して
いただきたく存じます。

編集後記

少しずつ外出の規制が緩和されてきた
矢先の再度の外出規制。きつとこの先もこ
のような状態が続くのでしょうか。

生活を維持するためには外出せざるを
得ない状況もありますが、自分たちで出来
る限りの予防対策をしながら、新しい生活
に慣れていきたいですね。

